

金剛山ゆっくり登山、山仲間に感謝

2023年5月24日(水)

高齢者4人、大阪府との境にある水越峠を午前8時45分に出発。ダイヤモンドトレール(ダイトレ=葛城・金剛山系縦走路)を金剛山めざして歩き始める。

快晴、涼しい。林道にはウツギやニセアカシヤの白、ヤブウツギの赤、ヤマブキの黄色等色とりどりの花びらが散り敷かれている。ウグイスがけたたましく鳴き、ツツドリの声が遠くから届いてくる。

ゆっくり歩いて、10時に湧き水「金剛の水」着。Nさんが、ご主人手製のカステラを配る。一同それに舌鼓を打ちつつ「今後ともよろしく」との伝言を依頼。



林道から外れて、尾根への急登を昇り、10:45 尾根筋のベンチへ。奈良県側の眺望を楽しみ、さらに南に向かう。

路傍のタニギキョウ、キバナツクバネウツギの花などを楽しみ、12時丁度に「一の鳥居」着。一休み後、山頂にある転法輪寺に着く。境内ではクリンソウが鮮やかな花を見せ、オオヤマレンゲがつぼみを膨らませていた。山頂広場のベンチで大阪側の景色を眺めつつ12:50 昼食。13:20 下山開始。登ってきたダイトレを引き返し、15:20 金剛の水着。16:10 駐車場。

8か月前に両膝人工関節置換手術を受けた筆者に付き合っ “ゆっくり登山” に同行いただいた山仲間に深く感謝。



↑クリンソウ

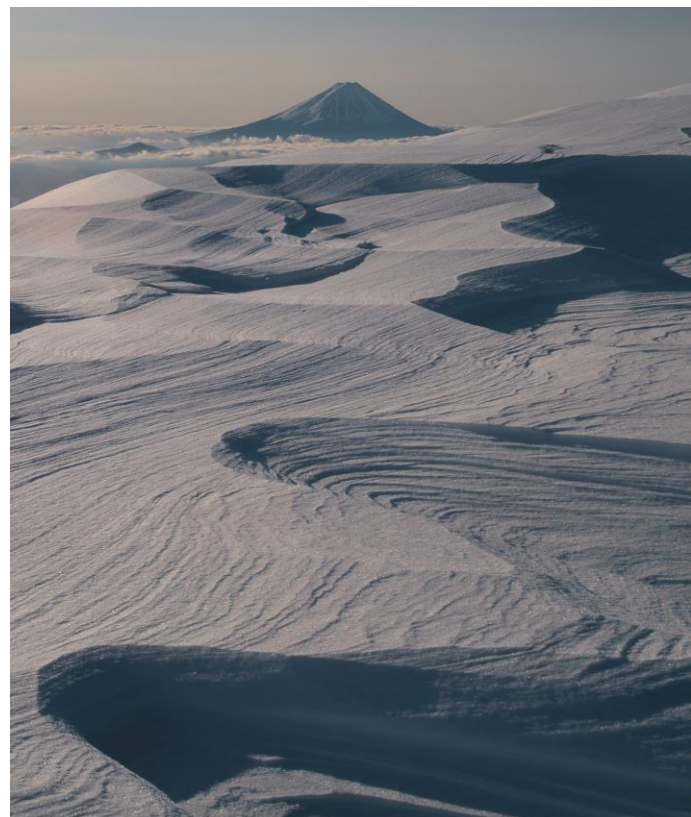
←タニギキョウ

椿別・松尾治 同窓生がひらいてくれた“しのぶ会”

5月31日長崎西高同窓生三人の“しのぶ会”が東京で開かれた。追悼の対象となったのはAさん、K君、そして松尾治(私の双子の弟)の三人であった。いずれも同窓会登山にも参加していた人たちで、その「急逝」を惜しむ在京の同期同窓生が“しのぶ会”を開催してくれたのだ。

当日は15名もの同窓生が参加し、三名の故人にまつわる思い出話をしながら、旧交を温めあった。私にとっては、高校卒業以来63年ぶりという人も来ていて、遠隔の地・奈良に住む私には有意義で有難い集いであった。

なお、参加者の一人・寺井一弘弁護士が、同氏と松尾治との長期にわたる交友関係について語り、同氏が所長を務める法律事務所が富士山の世界遺産登録記念で「富士の四季—撮影・松尾治」と題する写真集を発行したことを紹介し、その抜粋コピーの小冊子を参加者全員に配布していた。遺族である私は、参加された皆さんへの感謝の念でいっぱいだった。



↑松尾治「シュカブラ(雪紋)」 金峰山で

今、二上山でササユリが見頃

ふるさとの山・二上山で初夏の花が咲き始めました。何といても主役はササユリ、この花を観ようと多くの人々が訪れますが、奈良県側の「祐泉寺〜馬の背」間が土砂崩れなどで通行止め。

もう一つの主役=キノガサタケにも？



↑キノガサタケ

やむをえず岩屋峠まわりのコースで登る人が多い。でもこっちの方がササユリを観るのには適当。しかも途中でキノガサタケ(きのこ)の自生地を通り、ほぼ毎日出現する

しんどい人は太子町・万葉の森から

登山道を歩くのがしんどい人は、太子町の万葉の森から舗装道路を昇るのも良い。車両は通行禁止。傾斜はきついが、安全。ストック(杖)持参をお勧めします。



↑6月初旬

優美な姿に出逢えるかも。さらにアジサイ、コアジサイ、クララ、ナルコユリ、ソクシンランその他の花も開花しています。

続・続・二上山に咲く花々 44

写真は故澤木仁さん

スイカズラ (吸い葛、忍冬)

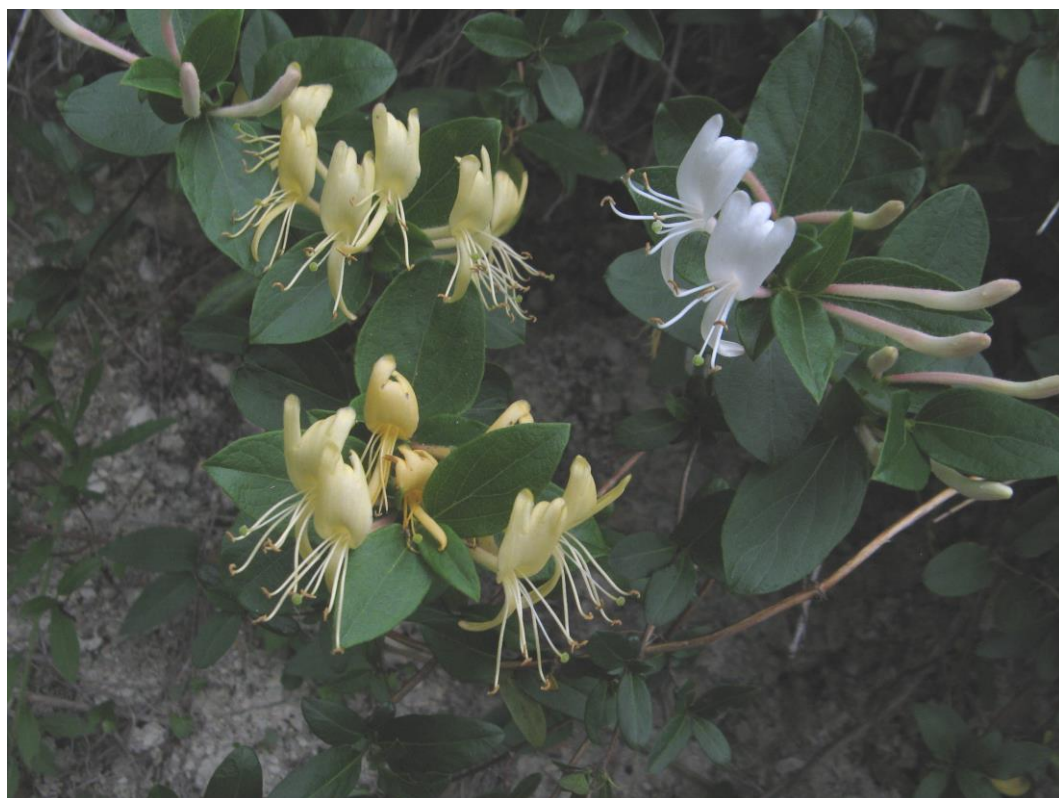
スイカズラ科スイカズラ属

人里から山野まで、林縁や道端などでよく見かける植物。二上山でも登山道の傍らに多く自生しています。

甘い蜜をもち、甘い香りを漂わせます。花筒のうしろの管から蜜を吸ったのでこの名に。

花は、始め白色だが、受粉すると黄色に変化していきます。ここから「金銀花」との異名も。中国名「忍冬(にんどう)」は冬にも耐えて枯れないことからの名。

花期は5月～7月。花はふたつ並んで咲き、実も並んでのります。



松尾治追悼写真展

健全会土庫病院1階待合室で続けられている「追悼写真展」は、近く写真を入れ替えて継続される予定です。病院の会計の近くですから、ご覧下さるようお願いいたします。

不要な「登山、アウトドア用品」のカンパ ありがとうございます。国民救援会中和支部の活動資金として活用させていただきます。今後も引き続き取り組みますので、よろしく願いいたします。